

名前 ( ) 日づけ ( / ) できた数 ( /25)

**使い方** 三文しかありませんが、**ここだけで語句・文法・たとえ・文学史が全部出ます**。まず声に出して読み、傍線の番号を手がかりに解いてください。

**この文章が言っていること**＝河の流れは絶えないのに、水は入れかわっている。泡は消えてはできて、長くともまらない。人もその住まいも、それと同じだ。つまり**無常観**を、二つのたとえで示した文章です。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

① ゆく河（かは）の流れは ② 絶（た）えずして、③ しかも④ もとの水にあらず。⑤ よどみに浮かぶ⑥ うたかたは、⑦ かつ消えかつ結びて、⑧ 久しくとどまりたるためしなし。⑨ 世の中にある人と栖（すみか）と、また⑩ かくのごとし。

語注 ゆく＝流れて行く。絶ゆ＝とぎれる・なくなる（ヤ行下二段）。しかも＝それでいて・それなのに。よどみ＝水の流れがとどこおってたまっている所。うたかた＝水面に浮かぶ泡。はかないもののたとえによく使う。かつくかつ＝一方では、また一方では。結ぶ＝（泡が）でき上がる（バ行四段）。ためし＝例・先例。栖＝すみか。住まい。ごとし＝比況の助動詞（くと同じようだ）。

**暗誦（あんしょう）チェック ※そらで言えるか**

ゆく河の流れは（ ）して、しかももとの水にあらず。  
よどみに浮かぶ（ ）は、かつ消えかつ結びて、  
久しくとどまりたる（ ）なし。  
世の中にある人と（ ）と、またかくのごとし。

**A 語句の意味と読み（1～6）**

- （1）①「ゆく河（かは）」の「ゆく」の意味を書け。  
（2）③「しかも」のここでの意味を書け。  
（3）⑤「よどみ」とはどのような場所か。  
（4）⑥「うたかた」の意味を書け。  
（5）⑧の中の「ためし」の意味を書け。  
（6）⑨の「栖」の読みと意味を書け。

**B 文法 (7～12)** ※打消・断定・比況

(7) ②「絶(た)えずして」の「ず」を、文法的に説明せよ。

(8) ②の「絶え」の終止形(基本形)と活用の種類を書け。

(9) ④の「もとの水に」の「に」は文法的に何か。名称と活用形を書け。

(10) ④の「あらず」を品詞分解し、それぞれ説明せよ。

(11) ⑦の「結び」の終止形(基本形)と活用の種類を書け。

(12) ⑩「かくのごとし」の「ごとし」は何という助動詞か。意味も書け。

**C 何のたとえか (13～15) ★この文章の山**

(13) ⑥「うたかた」は、何のたとえとして用いられているか。

(14) ⑩の「かく」は、何を指しているか。

(15) ①「ゆく河の流れ」と⑥「うたかた」は、⑨の「人と栖」のどちらに重なるか。それぞれ書け。

D 口語訳 (16～19)

(16) ①・② 「ゆく河の流れは絶えずして」

(17) ③・④ 「しかもとの水にあらず」

(18) ⑦・⑧ 「かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」

(19) ⑨・⑩ 「世の中にある人と栖と、またかくのごとし」

E 内容・記述 (20～22)

(20) ⑩ 「かくのごとし」が指す内容を明らかにしたうえで、この一文が述べようとしていることを書け。

(21) この文章の全体に流れている、仏教にもとづく考え方を漢字三字で書け。

(22) 作者は、なぜ「河の流れ」と「うたかた」の二つを並べたのか。四十字以内で書け。

F 文学史 (23～25)

(23) この作品の作者名・ジャンル・成立した時代を書け。

(24) 『方丈記』は日本三大随筆の一つである。残りの二つの作品名と作者名を書け。

(25) 三大随筆を、成立の古い順に並べよ。

暗誦テスト ※本文を見ないで、冒頭を全文書いてみよう

【テスト直前チェック】この三つ ①「に」＋「あらず」の「に」は断定の助動詞。格助詞ではありません。ここが文法の最頻出。 ②「うたかた」＝泡。人と栖のはかなさのたとえです。 ③主題は無常観。「かくのごとし」の「かく」を説明できれば記述は書けます。